

国立公園における海岸漂着ゴミ対策の現状と課題(まとめ)

知床国立公園の特殊性

- ◆ 対馬海流の終着地(国外由来を含む多くの海岸漂着ゴミの発生)
- ◆ 陸路(車両)でアプローチできるエリアが少ない(アクセスのコストがかかる)
- ◆ 世界自然遺産にも登録された豊かな自然環境であり保全の重要性は高い

知床国立公園における海岸漂着ゴミの現状

- ・平成21年9～10月に現地調査。(トレッキングおよびシーカヤックによる踏査)
- ・海岸漂着ゴミは、断崖部を除き全域にわたって漂着している。
- ・最も多い場所は獅子岩付近の各小湾およびルシャ地区。
- ・漁業由来の漂着物が最も多く、全体の9割を占める。
- ・獅子岩付近にはハングルの書かれた薬品入りポリ容器が多数漂着している。
- ・韓国でアナゴ漁に使用されているという漁具が多数漂着している。
- ・ルシャ地区だけで、ゴミの量は推計340トン。(うち漁業由来は推計300トン)
- ・廃番屋付近においては、漂着ゴミとそうでないものの区別は微妙である。
- ・全体に流木も大量に漂着しているが、今回は自然物として回収と検討の対象に含まず。

知床での漂着ゴミ対策の現状

環境省による大規模な試験回収(回収モデルの提示)

- ・人力では回収できない大型ゴミ(土中に埋設した漁網等)についての回収技術の提案
- ・陸路でのアクセス困難地での運搬手法についての提案(コスト試算)

北海道

海岸漂着物処理推進法による協議会の立ち上げ(地域グリーンニューディール基金の活用等)

地域住民・漁業者等による回収

- ・両町において様々な団体が取組を展開
- ・人力だけでは回収できない大型ゴミも多数
- ・回収したものの、運搬・処分コストが課題

地元町による取組

- ・住民団体等が回収したゴミは引き取って処分(分別が前提)
- ・最終処分場の許容量から大規模な漂着ゴミの引取は困難

今後の課題(案)

- ・地元団体等による回収活動の連携と回収物の処理に関する行政機関の協力体制の整備
- ・回収、運搬、処理のコスト低減の手法及び回収した廃棄物の再資源化による最終処分量の大幅減量化についての検討(特に漁網・ロープ等のプラスチック系ゴミ)
- ・流木量についてもモニタリングを実施し、堆積量が増加傾向にある場合は、植生等への影響を勘案して対策の要否について検討。
- ・ゴミ排出削減のための普及啓発等
- ・海岸漂着物処理推進法による対策の検討